

令和7年度 第7回市長タウンミーティング 概要

- 日 時：令和7年11月22日（土）午後3時～4時30分
- 場 所：秩父市役所 3階 庁議室
- テーマ：公共交通対策
- 参加者：30人
- 意見交換（主な内容）

発言者1： 2つお聞きします。1つめに、高齢の父が黒谷地区に居住しており、今後は免許返納を考えなければなりませんが、原谷線のバスの運行最終便が17時から18時にかけての運行で、買い物や病院通いに不便です。オンデマンドバス等の整備を考えてはいかがでしょうか。

2つめに、三峯神社線の混雑がひどく、座席の確保には早いうちからバス停で待っていなければなりません。西武バスが検討することかもしれませんのが、収益があるなら指定席のような形態を考えても良いのではないかでしょうか。一番良いのはロープウェイが復活することかもしれません。

担当回答： デマンド交通にはメリット・デメリットがあります。場合により運営コストの削減、利用者の利便性向上が見込まれます。一方で、運賃の値上げ、予約のハードルが上がる、利用が増加すると予約ができない場合が発生するなどが挙げられます。これらを踏まえて、導入可能性についても検討したいと思います。

市長回答： 黒谷地域を実際に歩いてみると、地域公共交通についてご心配されている方が多いと感じました。買い物や医療機関へのアクセスは、車が運転できないと不便であり、オンデマンドバス等の導入について検討する必要があると考えています。ただし、導入の可否やサービス形態はエリアごとの特性を慎重に見極めるべきであり、全体としては秩父地域での連携も不可欠であると感じています。今後もう少し広域的な議論の場を整えていきたいと思っています。

路線バス、三峯神社線につきまして、西武観光バスもご苦労されていいると推測していますし、定時運行が難しい路線であると推察しています。三峯神社付近全体の交通について検討していくべきだと思っています。その中で、秩父鉄道も関連していますが、ロープウェイといったお話を出てきています。

発言者2：以前問い合わせをしたところ、市営バスの料金が身体障がい者についても同額となっていました。小鹿野町では町営バスについては無料、皆野町では割引制度があると確認しました。秩父市でもこういったサービスを検討してほしいです。

駅のバリアフリーを検討してほしいです。影森駅、秩父駅は階段で移動しなければいけません。また、エレベーターなどが整備されていません。整備に補助などできればよいと思います。

三峯神社は駐車場を複数準備したほうがよいと思います。ロープウェイだけでは渋滞解消にならないと思います。初詣の時には8時間以上かかったこともあります。

担当回答：バスの割引について、市営バス川又線は、障がい者割引制度がありますが、浦山線については現在ありません。質問の中で挙げていただいた皆野町と小鹿野町の例を参考に検討したいと思います。

市長回答：担当の回答にあったように、近隣の状況を確認したいと思います。

2つ目の質問として、鉄道のバリアフリーについてですが、これも市に声が寄せられております。秩父駅は現状階段の上り下りがあつたりするので整備してほしいという声があります。こうしたご意見はしかるべき場所に届けてまいります。

発言者2：寄居駅や熊谷駅などはエレベーターがついていたように思います。

市長回答：私の認識としましては、バリアフリー法により、一日の乗客数が規定数以上の場合には設置の義務化があったと認識しています。秩父鉄道はそこで該当しなかったのかもしれません。

また、三峯神社周辺の駐車場についてですが、既存の駐車場の拡張についての議論はされています。しかし、三峰地域の特性上適切な駐車場用地になり得る場所の確保が難しい状況です。また、国立公園であるため開発行為が制限されており、駐車場整備が難しいと認識しています。

発言者3：将来、市立病院を新しく建てた場合に、そこをバスターミナルのように秩父地域全体から集まるような整備をするのだと思っていますが、そのモデル、ビジョンについてお伺いしたいです。

また、私は車を運転しないため、バスルートマップを活用してバスを利用しています。ただ、夜間は運行がなく、バスの時間に合わせて行動しなければならないのが現状です。動けない人が病院に行こうとした場合、タクシーを使わざるを得ません。車いすの方でも乗れるような介護タクシーを増やさなければ、救急にしわ寄せがいってしまうのではないかでしょうか。既存のバスを使うのではなく、バスを小型化し、小回りの

良いものにしていくなども考えたほうが良いのではないでしょうか。

市長回答： 新病院構想についてですが、いまだ具体的な病院 자체の規模や立地が決まっていません。一方で、交通について、変えていかなければならぬことについて私の私見をもとに述べますと、西武鉄道、秩父鉄道を地域交通の幹として考えています。そこからの移動を考えた際に、西武鉄道、秩父鉄道の駅に次ぐサブターミナル的位置づけとして病院を検討しています。そこに多くの公共交通が乗り入れるようにしていきたいと考えています。地域によってはデマンド的運行も入ってくるかもしれません。

病院についてですが、便利な病院を作りたいと考えていますが、立地や地域公共交通との関係を考えると、都市計画全体の大きな話になっていきます。今は病院の大きさなどの議論ですが、ここからさらにまちづくり全体の話になっていくと考えています。例えば、都市機能誘導といった秩父市をより便利にするための施設の配置などの再編にも関わってきます。この大きな仕事で将来の秩父の姿が変わると思います。

2つ目の話については、今の地域公共交通もだんだん変わっていくものだと思います。介護タクシーなどが一般化していかないと難しいと思っています。以前のタウンミーティングでも、救急車ではなく、救急自動車の話が出ました。そういうものも新しい手段として必要になるのかなと考えています。交通分野が医療、福祉と密接に関係していくようにならないといけないと感じています。

発言者4： 市長の話を聞いて、もし、新病院がセメント跡地にできたらそこをネットワークの中心として、そこを経由すればどこにでも行けるようになるとうまくいくように感じます。

ニュースで秩父鉄道がロープウェイの調査をするのに補助金を出すのは本当でしょうか。私の考えでは大滝道の駅あたりに作るのが良いのではないかと思います。加えて、空き地を買い取って駐車場にしたらどうでしょうか。

市長回答： 病院のご意見はそのとおりだと思います。それがまさにまちづくりといえると思います。全国の首長が参加できる勉強会で、「人口が減少する社会で、人の動きを考えるまちづくりが必要だ」という話がありました。コンパクトシティの実現は難しいと全国で言われています。一部地域では可能かと思いますが、秩父では難しいです。今は「コンパクト+ネットワークシティ」というものがあります。中央地域は充実させ、秩父でいえば吉田、大滝、荒川地区のような場所に、それぞれ核となる場所を作り、そこと中央地域を交通でつなぐ構想が国で提唱されており、私もそれが良いと考えています。

私が都市問題研究会で関心を持ったのが、「自動運転」です。これから10年、20年以内にはまちづくりに導入されると考えています。もちろんすべてがそうなるわけではなく、回遊性タクシーなどがそうなる可能性はあります。また、今秩父にもあるLUUPが進化していき、ユニバーサルカーというような、一人乗りの乗り物などが増えて行くような時代が来ています。将来を考えると病院もこういったものと融和的でできるような構造が必要だと感じています。今までの技術に加えて新技術を活用できるようにしたいと思います。

ロープウェイの話ですが、秩父鉄道がロープウェイの事業化に向けた可能性調査を行うこととなりまして、そこに秩父市が上限250万円で補助金を出したいと考えています。秩父市議会で審議いただいているので、これが認められれば補助できると考えています。

発言者5：タクシーについて伺います。秩父のタクシーホーム数と稼働状況について教えてほしいです。最近西武秩父駅に停まっているタクシーが少ないと感じています。自宅にタクシーを呼ぶと迎車料金が500円かかります。タクシー運転手のなり手が減少しているという話も伺いました。市としてタクシーに対する施策をどのように考えているか聞かせてください。

発言者6：タクシー業界の者です。運賃は値上げをしようという話になり、500円が基準となっていますが、呼ぶと迎車料金がかかり、そこで費用が掛かってしまっていると思います。

乗務員が少ないのであります、高齢化も進んでおり、夜間の運行や待機車両も減少しています。バスも含めて運転手を増やすのは不可能です。西武観光バスも現時点では3人運転手が足りない中でなんとか運行していると話を聞いています。

一生懸命やっていますがご不便をおかけします。ご理解いただければと思います。

市長回答：ご回答いただきありがとうございます。

発言者5：実際に生活していて一番使うのがタクシーです。病人や高齢者、車の運転ができない人はタクシーを使うと思います。秩父市でタクシーの補助などはありますか。

市長回答：発言者6さん、タクシー業界に市ができることなど意見はありますか。

発言者6：横瀬町はデマンドをある程度の金額で使っていただいている。

秩父市でやるには範囲が広く、かなり力を入れてやらないと失敗すると思います。

いかに秩父市が行っていくかをしっかりと構想を練らないといけないと思います。皆野町で実証実験をやっていますが、乗っていただけていません。そうなるとやはり続きません。皆さんに利用してもらい、便利だという声を挙げてもらうのが大事だと思います。横瀬町はいろいろなことを長年やって制度が整っています。今早急なものとなると結論は出せないかと思います。皆さんのが声をもっと届けてもらうと、市も動きやすいのではないでどうか。

市長回答： ありがとうございます。発言者6さんには日頃からお世話になっています。数年かかるという話が出ましたが、誤解を招くかもしれません、「地域公共交通が重要だ」という議論は絶対これまで起こっていますが、本当に皆さんに乗っているかというと、皆さんそんなに乗っていません。本当に困っているのだろうかという考え方もあります。交通関係の会議にも、実際利用していない人が出席していましたことがあります。必ず議論しなければならない危ない問題ですが、危機迫っていないようなところがあるのかなと思っています。

発言者6： 市長の言うとおりです。久那地域でデマンド実装の要望があり、3か月の実証実験やったところまったく乗りませんでした。この結果ならないという結論になってしまいます。何をしたいのか、何を使いたいのか、皆さんに使っていただかないと難しいです。横瀬のような狭い地域で、活発に、高頻度で乗ってもらえば成功といえます。最初はブコ一さん号というバスから始まりました。その時は、初めに乗った方が目的地に着くまで1時間半かかってしまいました。それは大変だというような話になり、デマンドの話が起きました。そういういた過程を経て今の成功があります。

住民全員が公共交通を使わないと駄目だと思います。バスも難しいですね。乗っていただければ存続はできますが、皆自家用車を使います。ごく一部の方のためのバスになっています。そうすると「空気を運んでいる」「全然乗っていない」なんて指摘をされます。そういう現実を考えてから組み立てないと地域交通は先に進まないです。皆さんにはもっと利用していただきたいです。

市長回答： 大滝地域でもいくつかの仕組みが重なっていました。診療所の送迎車両・とちのきカフェという高齢者サロンへの送迎車、市営バス川又線という輸送制度を再編する予定ですが、これは必要に迫られたことと利便性の観点で進めてきたと思いますが担当としていかがでしたか。

発言者6： そちらの最終的な結論はまだ出ていません。今度の地域交通会議で議題として挙がります。そこも法律がネックになっています。交通関係は

法律が厳しく、簡単にできることではないので、全てクリアして皆さんの使いやすいようにとはなっていません。

市長回答： 様々な法律的障壁があるということですね。

発言者 2： 大滝の光岩地区のところは西武観光バスが走っていますよね。あれが廃止になったんですか。

発言者 6： いえ、そちらではなく市営バスの川又線というのが廃止になります。

発言者 2： それが廃止になるのは大変ですよね、栃木まで行ってたバスですね。

発言者 6： それも利用者がいないから廃止になります。

発言者 7： 町から山の登り口への移動手段がありません。秩父の山に行きたくて秩父に来ても登り口までどうやっていけばいいのかとなってしまいます。タクシーを呼ぶのもお金がかかります。以前は、川又、浦山含めてバスが運行していました。登山客はそれをみて安心して移動していました。それが無くなるようだと観光はだめだと思います。熊だけの問題じゃなく、足が無ければ人は来ないです。

市長回答： 今の発言を聞いて、交通の議論は医療の部分と似ている所があると感じました。様々な医療、高度医療なども含めて秩父ですべて診たいというのは理想としてあります。しかし、それは難しいです。同じように交通も何を残すべきのか。民間の方々が参入して様々なサービスを提供する時代ならよいと思いますが、行政が公共として、皆さんの暮らしを支える政策とすると、何を守るのか、最低限確保するべきなのかといった議論が必要だと思います。病院に行ける足は確保する、買い物は維持しようといったことを話す時代が来ると思います。どれをどの程度維持していくのかといった話をしなければならないと思いました。

発言者 4： 発言者 6さんに質問ですが、ライドシェアをどう思いますか。

発言者 6： ライドシェアも国交省の認可が必要で、本当に過疎地などでないと許可が下りないです。今の段階では大滝地域などの特定の地域でないとできません。ハードルが高いので国が工夫してほしいです。私はライドシェアに反対ではありません。

発言者 8： タクシーやバスは「やってほしい」の声だけ挙げて、乗らないのでは

実現は難しいだろうと思いました。ただ、高齢者のバス、タクシー向けの補助金が少ないのでしょうか。心配なので80代の祖母には運転を控えてほしいと感じています。免許返納の後、金額が少ないとメリットが無いのではないかと感じました。増額すれば利用者も増加するのではないかでしょうか。

市長回答： 貴重なご意見ありがとうございます。的を射た議論だと思います。今までと同じようなものではなく、新しい時代にあった補助の仕組みを検討していきたいと思います。

発言者3： 市内のタクシー事業者のうち、1社が福祉割引をやっていますが他のタクシー会社が福祉割引をやらないのはなぜですか。

発言者6： 会社が申請する仕組みになっています。その事業者は会社で負担していましたと思います。一度始めてしまうと止められなくて大変だと伺いました。

発言者2： 龍勢祭のときに運転手不足の問題だと思いますが西武秩父駅からバスが出ていなかったと思います。アシストちちぶも人件費、燃料費の高騰で経営が苦しいという話でした。少し補助してあげたほうが良いのではないでしょうか。

発言者6： アシストちちぶの件は、自家用福祉輸送で国からお金が出ていますので、秩父市も出すのは大変だと思います。

市長回答： 龍勢のときは皆野駅からバスが出ていました。

発言者2： 今まで両方出していたと思います。聖地公園はお盆やお彼岸でバスを出します。聖地公園周辺や大田地区は交通の便が無いから良くしてほしいです。

市長回答： 貴重な意見ありがとうございます。